

寄付およびチャリティランナー募集! 2020年は「東京」を走ろう!!

チャリティランナーになるには?

Step1 寄付先事業(団体)を選ぶ
寄付のしかたを4つの方法から選び、申込み → 下記①②④の決済方法はクレジットカードのみとなります。

Step2

① 個人チャリティ

個人で10万円以上の寄付をする
チャリティ公式ウェブサイトから応募。

先着順
定員 3,700名

WEBエントリー
7月2日(火) 10:00 ~ 7月8日(月) 17:00

② クラウドファンディング

クラウドファンディングを利用して合計10万円以上の寄付を募る
チャリティ公式ウェブサイトから応募。

寄付金額順
定員 300名

WEBエントリー
7月22日(月) 10:00 ~ 9月13日(火) 17:00

③ アクティブチャリティ

寄付先事業に直接寄付をする
各寄付先事業へ直接、お問い合わせ(受付中)。

先着順
定員 1,000名 (法人含む)

寄付先事業(団体)へエントリー
7月22日(月) 10:00 ~ 9月25日(水) 17:00

④ 寄付のみ

サポーターになる
チャリティ公式ウェブサイトからクラウドファンディングで寄付をすることで、走らなくても興味のある事業やランナーを応援できます。

WEB受付期間
第1弾 2019年7月22日(月) ~ 2019年9月13日(金)
第2弾 2019年10月上旬 ~ 2020年3月31日(火)

※第1弾は②クラウドファンディングのランナーを「サポーター」として応援する寄付のみとなります。

Step3 チャリティランナーとして参加手続きをする
※寄付金他、東京マラソン2020への参加料がかかります。
[税込:国内(日本語)=16,200円 海外(英語)=18,200円]

Step4 いずれかの日に「東京マラソンEXPO 2020」にてランナー受付 2月27日(木) ~ 2月29日(土) ※予定

Step5 東京マラソン2020 大会当日 3月1日(日) ※予定

「東京マラソン2020」チャリティの変更点		
内容	2019大会	2020大会
寄付先団体	22事業	29事業
チャリティの受付期間	同一	個人チャリティ→7月2日~(先着順) クラウドファンディング→7月22日~9月13日(金額順)
アクティブチャリティ定員	300名	1000名
アクティブチャリティ受付期限	8月下旬まで	9月下旬まで

来年3月1日に開催される「東京マラソン2020」のチャリティランナー募集が始まる。通常のエントリーでは高倍率でなかなか出走の機会が得られないが、チャリティランナーとしてならチャンスは広がる。自分が楽しむだけでなく、社会貢献もできるのがチャリティの魅力。2020年はチャリティランナーとして東京を駆け抜けてみてはいかがだろうか。

スポーツとチャリティの融合

次の2020大会(3月1日開催)で14回目を迎える東京マラソンは、日本の都市型マラソンの代表格として広く認知されるようになった。ランナーのエントリー抽選倍率も上昇の一途をたどり、前回は12倍を超えるなど人気急騰している。また、東京マラソン財団は2011大会から世界最高水準のマラソン大会を目指して「チャリティランナー」枠を新設し、一定額以上の寄付をしたランナーが東京マラソンに出場できる仕組みを作った。

アボット・ワールドマラソンメジャーズ対象大会など世界の大都市マラソンではチャリティランナー制度が一般的で、東京マラソンも多くの人を「つなぐ」というコンセプトのもとチャリティ制度を導入した。最初の2011大会こそ1000人の定員が埋まらなかったものの、翌年以降は着実に数を増

やし、前回は定員5000人のチャリティランナーを募集している。寄付の総額も過去最高の5億7000万円超となり、今や日本のスポーツイベントで最大級のチャリティに成長した。

チャリティランナーになる方法は3種類あり、「個人チャリティ」と「クラウドファンディング」はそれぞれチャリティ公式ウェブサイトを通じて10万円以上を寄付する。「アクティブチャリティ」は対象となる事業へ直接問い合わせをして応募するもので、こちらはすでに窓口を開設している。このほか、東京マラソンには出走しないで寄付のみに参加する「サポーター」も募集しており、こちらも公式サイトでクラウドファンディングができる。

東京マラソンのチャリティで特徴的なのは寄付先を自分で決められることだ。寄付先は東京マラソン財団の審査をパスした団体の中から選択でき、2020大会は29事業が

対象となる。事業の趣旨に賛同し、納得した上でチャリティができるので、寄付者にとっても満足度の高いシステムと言える。

そして、チャリティを通じた社会貢献によって東京マラソン自体の価値も上がった。参加者が楽しむだけでなく、すべての人にとって東京マラソンが必要とされるように——。東京マラソンがチャリティを行う背景にはそんな想いもある。

「ダイヤモンドアスリート」の人材育成に尽力

東京マラソン財団はチャリティの寄付先として2015大会より「スポーツレガシー事業」を創設した。そこではランニングを中心に「スポーツを軸とした新しいライフスタイルを享受できる社会の実現と継承」等を目指している。

その取り組みの1つとして、日本陸上競技連盟の「ダイヤモンドアスリートプログラム」をサポート。世界の舞台でリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的とする「リーダーシッププログラム」を運営し、世界選手権男子400mハードル銅メダリストである為末大氏の監修でさまざまな講義

※「チャリティランナー」での参加について

- ・チャリティランナー参加登録(出走)は任意となります
- ・参加資格:「東京マラソン2020」大会当日満19歳以上の方
6時間40分以内にマラソンを完走できる男女
- ・その他、一般の参加者の募集要項・申込規約等に準じます

詳しくはWEBサイトをチェック!!

<https://www.marathon.tokyo/charity/>



世界に羽ばたく「ダイヤモンドアスリート」 ~豊かな人間性を持つ国際人育成のためのリーダーシップ教育を 「スポーツレガシー事業」がサポート~

撮影:2019年6月 全米学生選手権

▲6月7日の全米学生選手権男子100mで9秒97(+0.8)の日本新記録を打ち立てたサニブラウン・アブデル・ハキーム(フロリダ大)。公認の9秒台を2度マークした初めての日本人となった。写真:APIアプロ

撮影:2019年4月 アジア選手権

▲男子走幅跳の橋岡優輝(日大)は4月のアジア選手権で金メダルを獲得

撮影:2019年5月 木南記念

▲5月6日の木南記念女子やり投で64m36の日本新記録を樹立した北口榛花(日大)

やワークショップを展開してきた。

それらのプログラムを受講したダイヤモンドアスリートやその修了生が、今季は特に目覚ましい活躍を見せている。4月のアジア選手権では男子走幅跳の橋岡優輝(日大)が日本記録にあと3cmと迫る日本歴代2位の8m22(+0.5)で金メダルを獲得し、5月6日の木南記念では女子やり投の北口榛花(日大)が2020年東京オリンピックの参加標準記録を突破する64m36の日本新。5月11日・12日に神奈川県横浜市で開催された世界リレーでも、宮本大輔(東洋大)、井本佳伸(東海大)、クレイ・アロン竜波(相洋高・神奈川)の3選手が日本代表として力走した。そして、アメリカではフロリダ大に留学中のサニブラウン・アブデル・ハキームが6月7日の全米学生選手権

男子100mで9秒97(+0.8)の日本新記録を樹立。東京オリンピックを前に「ダイヤモンド」たちが輝きを放った。

また、スポーツレガシー事業は日本実業団陸上競技連合のマラソン特別強化プロジェクト「Project EXCEED(プロジェクト・エクシード)」にも協力しており、男子は昨年2度も日本記録が塗り替えられている。東京マラソンが陸上界の発展に寄与していることは疑いようがないだろう。

一方で、アスリートの強化育成だけでなく、スポーツの環境整備、普及啓発、社会貢献なども行っている。今春には東京都立川市の国営昭和記念公園に1周2500mと3900m、5600mの園内コースを設定し、距離表示ポストを新設するなどして誰でもウォーキングやランニングを楽しめる

「パークフィットネス」の場を創出した。東京マラソンのチャリティによってさらにスポーツの輪が広がっていく好循環が生まれ出されている。

「人々が協力し合う社会を作りたい」

東京マラソンの創設やチャリティなどを主導し、現在はレースディレクターのほかにスポーツレガシー事業運営委員長も務める早野忠昭氏は、チャリティ事業の規模拡大を目指し、寄付を受けた組織がどのように寄付金を活用しているか明示するように求めて、寄

付をする側と受ける側の双方が気持ちの良い関係を築けるチャリティ文化の醸成を図ってきたという。

「ロンドン・マラソンは3万人のチャリティランナーが走り、平均で1人が30万円ほど寄付しています。金額がすべてではありませんが、日本のチャリティ文化をそういうレベルまで上げていくのが目標の1つです。スポーツレガシー事業も陸上界を揺さぶっていると思いますし、今後も東京マラソンが見本を示していきたいと考えています」

東京マラソンは単なる競技会ではなく、スポーツを中心とした1つの「文化圏」を形成しつつある。「私は教員やスポーツメーカー社員をやりながらスポーツに関わってきました。東京マラソンはその集大成だと思っています。ランニングを中心に、あらゆる人々が協力し合う世界を作りたい」と早野氏。スポーツを通じてより多くの人々が幸せを感じられるように、東京マラソンは今後もさまざまな取り組みに挑戦していきたいそうだ。



▲スポーツレガシー事業チャリティアンバサダーとして活動している(左から)鹿野淳さん(音楽プロデューサー)、大島めぐみさん(女子マラソン元日本代表)、中村優さん(タレント)、M高史さん(ももたねアスリート芸人)。東京マラソン関連イベントに参加するなどしてスポーツレガシー事業の普及に努めている



▲東京マラソン財団事業担当局長/レースディレクター(RD)である早野忠昭氏がスポーツレガシー事業運営委員長を兼任。チャリティ文化の醸成とスポーツを中心とした社会の発展を願っている

SPORTS LEGACY

TOKYO MARATHON FOUNDATION

<https://www.sportslegacy.jp>